



主催者
太平洋総合コンサルタント株式会社

環境調査・地質調査・設計・測量等を行う建設総合コンサルタント
http://www.taicon.co.jp/

取組み概要

現地体験型の環境教育の実施(身近な水質や生物の調査)



取組みのねらい

- ① みんなの湿原への関心を高める
- ② 湿原と人との関わりの歴史と今を知る
- ③ 自然再生の仕組みや動きを広める
- ④ 自然再生について情報公開と合意形成を進める
- ⑤ 自然再生に地域・市民の参加を促す
- ⑥ 自然再生への幅広い支援・協力を求める
- ⑦ 湿原と継続的に関わる学びの機会をつくる
- ⑧ 国立公園の新しい利用形態を創り出す
- ⑨ 湿原を訪れる人へのサービスを改善する
- ⑩ 人・施設・地域のネットワークをつくる

独自のねらい

可能な限り、現地にて生徒自身が体験し学習できるプログラムとした

実施の様子

生徒自身が水質を調査する体験型の環境教育の実施

- 日 時 : 10月26日~10月29日 (授業時間 2時間×3日間)
- 場 所 : 釧路川(常盤橋付近) および標茶高校敷地内(牛舎)
- 参加者数: 高校1年生 約90名(約30名×3クラス)

- ・ 近くを流れる釧路川と学校敷地内にある牛舎糞尿の水質を調査
- ・ 2箇所における成分の違い、環境の違い等を学習
- ・ 調査は主に市販のバックテストを使用(pH、COD、アンモニア、リン酸)
(色の変化でおおよその水質が簡単に測定できるキット)
- ・ 班毎で調査行い、水質グラフを作成(2箇所の水質を1つのグラフに表す)
- ・ グラフを見ながら、2箇所の成分の違い、その原因、周辺環境への影響等を学ぶ
- ・ 水の重要性、農業と河川の関係、糞尿浄化と有効利用等について説明、質問へ対応



主催者の感想

■ 標茶高校は広大な敷地に牛舎、圃場、加工施設等があり、生徒は農業を体験しながら学習できる。早くから『環境』に力をいれており、ミニ湿原での浄化実験等の取組が生徒主導で行なわれている。

釧路川と牛舎糞尿、両者とも生徒の身近にあるものだが、実際に観察し、水質を比較するのは初めてだったと思う。食を支える農業と「家畜糞尿」「自然環境」の問題、高校1年生にしてはやや難しいテーマかもしれないが、農業が盛んな標茶町での3年間、生徒の中でキーワードに残るものがあられほしい。

